

天理市埋蔵文化財センターだより Vol.31

共同展

天理 山の辺の古墳

令和3年
2月6日(土)~
3月15日(月)

【会場】
天理大学附属天理参考館

【主催】
天理大学附属天理参考館
奈良県立橿原考古学研究所附属博物館
天理市教育委員会

特集
3次元計測で浮かび上がる古墳の姿

山之辺古墳群南部の地形起伏図

共同展

天理 山の辺の古墳

天理が誇る古墳文化を一挙展示。普段は離ればなれになっている天理の古墳出土品が一堂に。

会期：令和3(2021)年2月6日(土)～3月15日(月)

火曜休館 ※2月23日(火・祝)は開館、24日(水)は休館

時間：9:30～16:30(入館は16:00まで)

会場：天理大学附属天理参考館 3階企画展示室

料金：大人500円 小・中・高生300円

主催：天理大学附属天理参考館
奈良県立橿原考古学研究所附属博物館
天理市教育委員会

後援：天理市・天理市観光協会
歴史街道推進協議会

協力：天理大学文学部歴史文化学科
埋蔵文化財天理教調査団

詳しくは
天理参考館の
ホームページを
ご覧ください

天理市内には原始・古代から近現代に至る数多くの文化財が所在します。天理市教育委員会文化財課では、平成18年度より文化財展示をおこない、市内の文化財と市の歴史について理解を深めていただけるよう努めています。

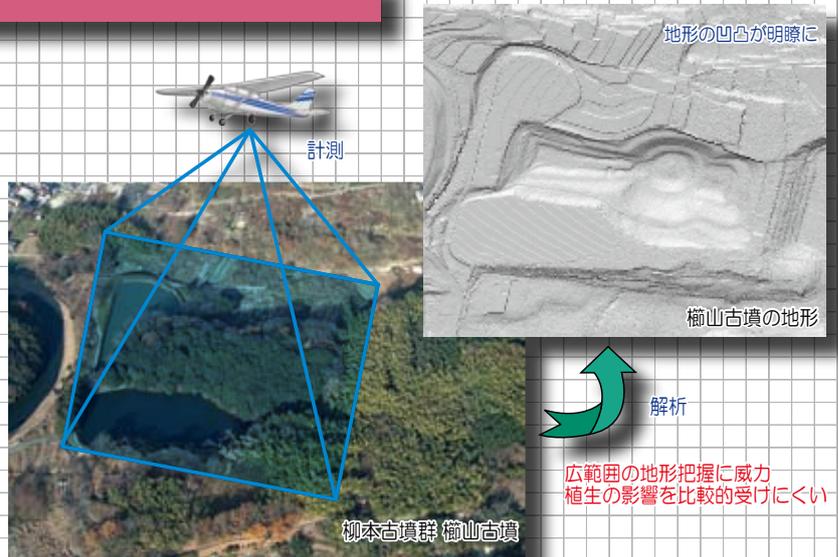
今回の文化財展は、天理大学附属天理参考館・奈良県立橿原考古学研究所附属博物館・天理市教育委員会の共同開催となりました。共同展「天理 山の辺の古墳」にあわせ、今回の紙面では最新の測量調査で明らかになった天理市内の古墳の姿をご紹介します。

3次元計測で 浮かび上がる 古墳の姿

近年の測量技術の進歩は複雑な地形を立体的にとらえ表現することを可能にしました。3次元計測によって浮かび上がった市内の古墳の姿を紹介します。

航空レーザ測量とは

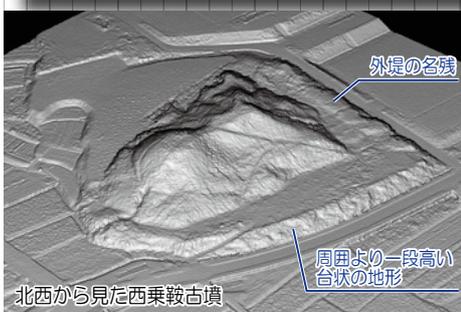
航空レーザ測量は航空機に積み込んだレーザスキャナから地上にレーザ光を照射し、地上から返ってくるレーザ光との時間差により得られる地上までの距離情報と航空機の位置情報を解析して地上の標高や地形の形状を調べる3次元計測の手法です。天理市教育委員会は平成27年度から市内の古墳の航空レーザ測量に取り組んでいます。



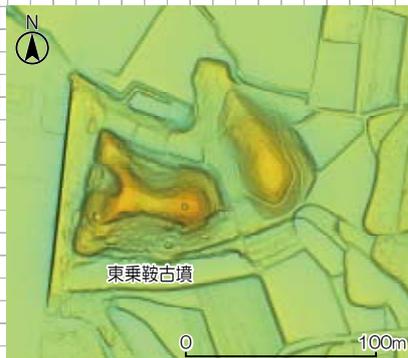
杣之内古墳群 西乗鞍古墳・東乗鞍古墳・小墓古墳



杣之内古墳群南部には3基の前方後円墳が並ぶように築かれています。西乗鞍古墳（長さ約118m）は、周囲より一段高い台状の地形の上に前方後円墳が乗っている様子がわかります。この台状の地形は古墳の周濠と外堤が埋まって出来たものであることが発掘調査により判明しています。よく見ると墳丘の南側には外堤の高まりが今でも残っています。もともとは高い外堤と周濠に囲まれた雄大な姿をしていたことがうかがえます。



西乗鞍古墳の東隣にある東乗鞍古墳（長さ約83m）も、やはり周囲より高い台状の地形の上に前方後円墳が乗っていて、地形の性格が注目されます。一方、西乗鞍古墳の西側に位置する小墓古墳（長さ約80m）では、周濠の痕跡が現在の地割に表れているものの、周囲との標高差はほとんどないことが特徴です。

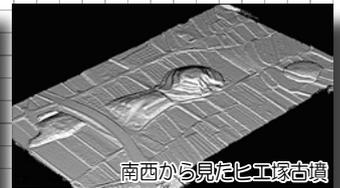


大和古墳群 ヒエ塚古墳・ノムギ古墳・クラ塚古墳

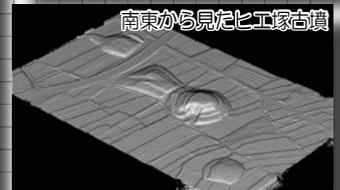


今回紹介する古墳の位置

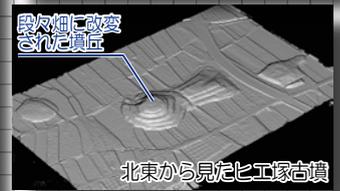
大和古墳群ヒエ塚古墳（長さ約 127 m）は前方後円墳ですが、後円部がひととき高く、古墳時代でも古い時期に特徴的な形状をしています。ヒエ塚古墳は現在では果樹園や畑として利用されており、石垣により段々畑がつくられて墳丘本来の形状からは変化しています。その西側にあるノムギ古墳（長さ約 63 m）は前方後方墳、東側にあるクラ塚古墳は円墳（径約 38 m）で、ごく狭い範囲に様々な形の古墳がつくられていることがわかります。



南西から見たヒエ塚古墳



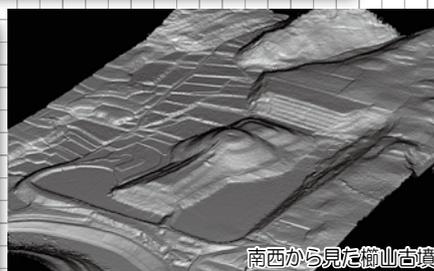
南東から見たヒエ塚古墳



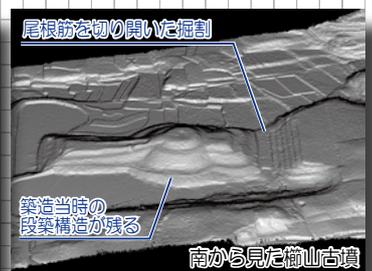
段々畑に改変された墳丘

北東から見たヒエ塚古墳

柳本古墳群 櫛山古墳



南西から見た櫛山古墳



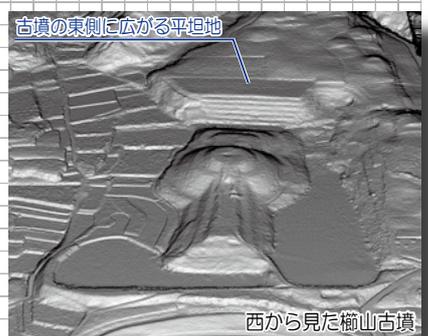
尾根筋を切り開いた掘割

築造当時の段築構造が残る

南から見た櫛山古墳

柳本古墳群櫛山古墳（長さ約 155 m）は前方後円墳にさらに方形の突出部がとりつく特異な形状で、双方中円墳とも呼ばれます。畑や果樹園の造成によって墳丘が大きく改変されたヒエ塚古墳とは異なり、古墳築造当時からの段築構造が現在も非常によく残されています。古墳の周辺を見ると、東方から伸びる尾根筋を切り開いて古墳を築いた様子を見て取ることができます。また、古墳東側には人為的とも思える平坦面が広がっていることが目を引きます。

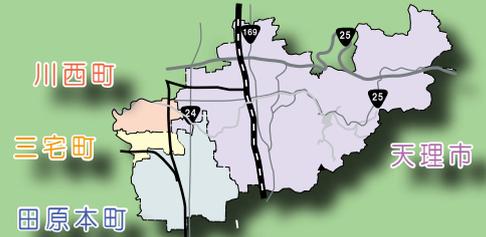
古墳の東側に広がる平坦地



西から見た櫛山古墳

大和まほろば 広域定住自立圏

天理市・川西町・三宅町・田原本町は文化財の保存と活用について広域連携による取り組みを推進しています。各市町の文化財の話題をお伝えします。



天理市

天理市教育委員会は大手前大学と協定を結び、市内の遺跡の遺物・遺構の調査研究を共同でおこなっています。

現在、天理市の荒蒔古墳から出土したさまざまな形象埴輪の3次元レーザ計測に取り組んでいます。最新の計測装置を駆使して作成された3次元モデルは、パソコンやスマートフォン上で、いろんな角度から手に取るように観察することが可能です。下記サイトで公開試行中の3次元モデルをご覧ください。→ <https://skfb.ly/6WFPM>



大手前大学史学研究所
sketchfab アカウント
『天理市教育委員会
との共同調査研究』

最新のブラウザで
アクセスしてください



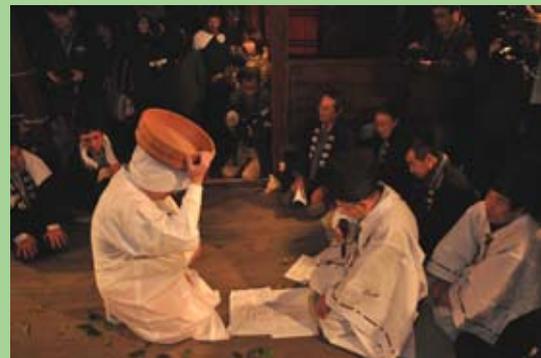
計測風景(令和元年撮影)

■天理市 形象埴輪の3次元計測作業

川西町

今回は保田の六杵神社拝殿で2月11日におこなわれる県指定無形文化財「子出来おんだ祭り」をご紹介します。40分程度で終わる素朴な行事で、この間に田植えに関する所作を6種類おこない、その後妊婦に扮した本厄の男性が登場し、夫役の神主と会話を交わすうちに産気づき、衣装に仕込ませた太鼓を放り出し出産を表現し、神主がそれを取り上げて子供の誕生を祝います。最後に台詞を述べながら種籾を撒く種蒔き神事をおこない終了します。

残念ながら今年度は開催が中止となりましたが、再開された折には是非ご覧くださいたい行事です。



■川西町 六杵神社 子出来おんだ祭り

三宅町

三宅町では、町の歴史遺産である三宅古墳群の調査を継続的におこなっており、その調査の際に出土した資料を、三宅町文化ホールにて常時展示しています。現在は、瓢箪山古墳から出土した埴輪を展示しており、円筒埴輪をはじめ、人物・鹿・犬などの形象埴輪をいただけます。特に犬形埴輪は、額から鼻先にかけて綾杉文状の文様が描かれており、このような特徴をもつものは他に例がありません。

※見学無料 祝日休館

見学希望の方は、事前に三宅町社会教育課までお問い合わせください。TEL:0745-44-2210



■三宅町 瓢箪山古墳 犬形埴輪

田原本町

唐古・鍵考古学ミュージアムでは、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、3月末から休館していましたが、6月の再開館にあわせて入・退館時の手指の消毒、入館者カードの記入、館内の一方通行を軸とした対策をしています。これにのっとり、今秋には企画展と関連講演会等を実施することができました。ご来館者にはご不便をおかけしましたが、快くご協力いただき、「安心して観覧することができた」というご感想をいただきました。今後も、今回の教訓を活かしたミュージアム運営をしていきたいと思ひます。

『大和神社ちゃんちゃん祭り調査報告書』販売中！

奈良県指定無形民俗文化財『大和神社ちゃんちゃん祭り』の調査報告書を販売しています。天理市埋蔵文化財センター・天理市立黒塚古墳展示館でお買い求めいただけるほか、通信販売もご利用いただけます。1冊 1,500円 残部僅少です。詳しくは天理市教育委員会文化財課 Tel: 0743-65-5720 まで。



■田原本町 唐古・鍵考古学ミュージアム

発行◆天理市教育委員会文化財課
天理市埋蔵文化財センター
〒632-0017 奈良県天理市田部町 441-2
Tel・Fax 0743-65-5720

印刷◆

『天理市埋蔵文化財センターだより』次号をお楽しみに！